

## 医学部 看護学科(論文) 問題解説

### □■ 出題意図・評価方法・評価ポイント

- 〔Ⅰ〕 課題文は、津村節子の著書『紅梅』の一部である。主人公は、がんにより自らの死が近づいていることを強く意識し、尊厳死に向かう夫に伴走し、その最期を見届けた妻であり、作家であり、津村節子自身である「育子」である。「お前にはお前の生活があるのだから」夫はそうやって自分と同じ小説家である妻の「育子」を気遣いながらも、「育子」が読むことを知っている日記には「育子、寝ているうちに帰る」と書く。「育子」は、その日記を目にして小説の仕事に忙殺されて満足に夫を看病できなかったことへの妻としての自身を悔恨する。出題は、死が迫る夫の心情および妻「育子」の心情とともに、自らの死を意識している患者とその家族への関わりについての考えを問い、文章読解力、論理的思考力、表現力、倫理観等を総合的に評価した。
- 〔Ⅱ〕 課題図は、スポーツ庁における日本国民の運動・スポーツ（以下運動）の実施に関する実態と意識に関わる調査結果（統計資料）である。図1は、この1年間で運動を実施した日数や実施率について年代別の特徴、図2は、運動が個人や社会にもたらす効果として考えられている内容、図3は、運動を実施することができない理由を掲示したものである。出題は、図1～3の各々を正確に理解した上で相互の関連性を分析し、適切に課題を提示できるか否かについての能力と、同分析結果に基づく課題解決に向けた自らの見解を提示できるかどうかについての能力を問い、図表読解力、文章表現力、論理的思考力等を評価するとともに、本テーマに対する問題関心や問題意識等についても総合的に評価した。

### □■ 受験生へのメッセージ

両課題は、今日の保健医療福祉の分野に関する課題であり、各々に対する課題意識や関心、自己の考え等を含め、理解力、分析力、表現力、倫理観等を総合的に問うたものです。看護職を目指す受験生には、日頃より、国内外の保健医療福祉におけるさまざまな課題に対する意識や関心を高く持つとともに、それらに対する自己の考えについて十分に深めておくことを期待します。